

共同研究

（二〇一五年一〇月一日～二〇一六年三月三十一日）

戦後日本文化再考

〔研究代表者〕 坪井秀人、幹事 磯前順一

〔共同研究者名〕

浅野麗、石川巧、岩崎稔、大原祐治、岡田秀則、辛島理人、狩俣真奈、川口隆行、北中淳子、北原恵、木村朗子、紅野謙介、高榮蘭、五味洸典嗣、齊藤綾子、佐藤泉、尹芷汐、塩野加織、島村輝、申知瑛、管野優香、鈴木勝雄、張政傑、長志珠絵、十重田裕一、鳥羽耕史、戸邊秀明、成田龍一、朴貞蘭、橋本あゆみ、福岡良明、松原洋子、水川敬章、光石亜由美、美馬達哉、村上陽子、李承俊、鷺谷花、渡辺直紀、渡邊英理、沈熙燦、郭南燕、北浦寛之、石川肇、杉田智美、王莞晗、栄元、増田斎、田村美由紀

〔海外共同研究員名〕

酒井直樹、五十嵐恵那、キャロル・グラック

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一五年一月二三日

共同研究会WG会議

李承俊、張政傑「読書会『敗戦と戦後のあいだで…遅れて

帰りし者たち』（筑摩選書、二〇一二）

基調講演 五十嵐恵那

総合討論

〈第五回研究会〉

二〇一五年一月二二日

映画上映会及び個人発表

齊藤綾子「占領期からポスト占領期の映画におけるパンパ

ン表象―夜の女たちから基地の女たちへ」

二〇一五年一二月一三日

個人発表

沈 熙燦「戦後日本における朝鮮史研究の軌跡とその齟齬

―旗田巍と小松川事件を事例に」

パネル発表「沖繩をめぐる発話の行方」

戸邊秀明「一九五〇年代前半における『東京の沖繩』…在

日沖繩人の歴史から考える『戦後』

村上陽子「沖繩の被爆者…証言／表現をめぐる」

〈第六回研究会〉

二〇一六年三月五日

佐藤 泉「ナショナリズム再考の時代」

来年度以降計画等打ち合わせ

二〇一六年三月六日

個人発表

朴 貞蘭「戦後韓国における歴史教育を批判する―国定

化、記念施設、体験学習を中心に―」

橋本あゆみ「戦後社会運動におけるヒロイズムの快楽／暴

力―大西巨人『犠牲の座標』改稿の諸相から」

光石亜由美「『肉体』から戦後を再考する―『肉体文学』

を中心に」

人文諸学の科学史的研究

〔共同研究代表者 井上章一、幹事 瀧井一博〕

〔共同研究員名〕

今谷明、上島享、上村敏文、鵜飼正樹、小澤実、斎藤成

也、内田忠賢、長田俊樹、小路田泰直、佐藤雄基、関幸

彦、高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太

郎、永岡崇、林淳、シルヴィオ・ヴィータ、藤原貞朗、安

田敏朗、若井敏明、荒木浩、伊東貴之、大塚英志、倉本一

宏

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一六年三月二七日

若井敏朗「英雄時代論争とは何だったのか」

荒木 浩「文学史からかえりみた英雄時代論」

上島 享「草創期京大の日本史学」

関 幸彦「石母田正の挑戦―アカデミズム史学との組み打

ち」

二〇一六年三月二八日

永岡 崇「歴史の語りと『現場』——民衆史の一断面」

上村敏文「後期水戸学とキリスト教」

安田敏朗「民科とスターリン言語学」

今谷 明「『国民的歴史学運動』のタブー化と私の史学入門」

高木博志「桑原武夫と井上清、それぞれの一九六〇年代に

おける日本近代像」

竹村民郎・井上章一「明治絶対王制論をふりかえる」

討議（高木報告、竹村井上対談をめぐって）

戦争と鎮魂

〔研究代表者〕 牛村 圭、幹事 ジョン・ブリーン）

〔共同研究員名〕

岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川村覚文、川本玲子、金

志映、栗原俊雄、古田島洋介、小堀馨子、佐伯順子、谷口

幸代、竹村民郎、等松春夫、永井久美子、西原大輔、眞嶋

亜有、吉井文美、吉田（古川）優貴、末木文美士、堀まど

か、今泉宜子、稲賀繁美、倉本一宏、松田利彦、劉建輝、

磯前順一、郭南燕、朴美貞、エヤル・ベンアリ、西田彰

一、南直子

〔海外共同研究員名〕

徐載坤、平松隆円

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一五年一月一日—四日

靖国神社遊就館見学、資料調査等

昇殿参拝

神職による講演（靖国会館）と境内諸施設の案内

二〇一六年一月六日

研究発表1

ベンアリ・エアル“Bringing Dead Soldiers to Rest in Peace:

The Japanese Case in Theoretical and Comparative

Perspective”

研究発表2

吉田優貴「ケニアのナンディ社会における、死に方生き方

送り方」

二〇一六年三月二五日

研究発表1＋全員討議

イーゴリ・ポトーフ「ロシア文学における日露戦争の

記憶——『日本』の表象を中心に——」

研究発表2＋全員討議

金 志映「第二次大戦後のアジアにおける鎮魂と記憶の冷

戦―博士論文の報告を出発点として―」

研究会3年目の方針検討

説話文学と歴史史料の間に

(研究代表者 倉本一宏、幹事 榎本 渉)

(共同研究員名)

上野勝之、内田滯子、大橋直義、尾崎勇、追塩千尋、加藤友康、川上知里、木下華子、五月女肇志、佐藤信、関幸彦、曾根正人、多田伊織、葛尾和宏、中村康夫、野上潤一、野本東生、樋口大祐、藤本孝一、古橋信孝、保立道久、前田雅之、松蘭斎、三舟隆之、山下克明、横田隆志、佐野愛子、小峯和明、呉座勇一、荒木浩、井上章一、中町美香子、谷口雄太、グエン・ヴー・クイン・ニュー

(海外共同研究員名)

グエン・テイ・オワイン、宋浣範、劉曉峰、魯成煥

(研究発表)

〈第四回研究会〉

二〇一五年一〇月一七日

曾根正人「平安初期仏教界と五台山―『日本霊異記』上巻

第五縁の五台山記事が持つ意味」

関 幸彦「説話三題―史学と文学の架け橋」

魯 成煥「越境する記紀伝承―慶北高霊の高天原祭を中心

に―」

藤本孝一「中世絵巻の鑑賞方法―信貴山縁起絵巻を中心に

―」

二〇一五年一〇月一八日

葛尾和宏「『古事談』巻五巻頭話考」

多田伊織「古代仏教はだれのためのものか―言語から見ると

『日本霊異記』」

山下克明「式神と陰陽師説話」

五月女肇志「『古今著聞集』と古記録」

〈第五回研究会〉

二〇一六年一月九日

榎本 渉「文書・日記・説話における高麗文宗請医事件」

野本東生「古今著聞集と文体」

佐藤 信「『出雲国風土記』の説話世界」

野上潤一「林羅山『本朝神社考』による説話の資料化とそ

の享受について―羅山の学問と近世前期学問史におけ

る一展開をめぐる―」

二〇一六年一月一〇日

内田濤子「『長谷寺験記』享受の一端」

グエン・ヴー・クイン・ニュー「ベトナムの昔話に見られるモチーフ」

樋口大祐「慈光寺本『承久記』の視点について」

前田雅之「今昔物語集の享受から説話と歴史の関係を論ずる―本朝通鑑・近代国学・国文学・芥川龍之介―」

〈第六回研究会〉

二〇一六年三月五日

呉座勇一「北条義時追討院宣は実在したのか―慈光寺本

『承久記』の再検討―」

松蘭 斉「藤原（九条）道家と説話世界」

加藤友康「古事談における古記録の抄録―貴族たちが共有した『世界』」

佐野愛子「越南本『粵甸（えつでん）幽霊集録』における

皇帝像」

来年度以降の打ち合わせ

二〇一六年三月六日

木下華子「『発心集』蓮華城入水説話をめぐって」

中町美香子「今昔物語集の中の平安宮」

追塩千尋「老演をめぐる伝承と史実」

中村康夫「和歌と歴史―和歌説話とは何か―」

おたく文化と戦時下・戦後

〔研究代表者 大塚英志、幹事 北浦寛之〕

〔共同研究員名〕

浅野龍哉、板倉史明、内田力、香川雅信、菊地暁、キム・ジュニアン、木村智哉、嵯峨景子、富田美香、鶴見太郎、

中川譲、藤岡洋、細馬宏通、牧野守、室井康成、山本忠宏、佐野明子、滝浪佑紀、山路亮輔、谷口恵太、近藤和

都、鈴木麻記

〔海外共同研究員名〕

秦剛、堀ひかり、顔曉暉、キム・キュヒョン、マーク・ス
タインバーグ

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一五年一月二七日

キム・キュヒョン「戦後韓国少年マンガにおける植民地体
験と民族アイデンティティーの問題…コ・ウヨン（高

羽栄)の『大野望』を中心として」

堀ひかり「萩尾望都『マーシナル』とアーシュラ・ルグイ
ンの『闇の左手』(フェミニニストSF小説)における
クィア表象の比較」

嵯峨景子「新資料『女学校の制服』の書誌学的調査デー

タ・中間報告」

〈第五回研究会〉

二〇一六年三月一二日

佐野明子「一九二〇年代から占領期における日本アニメー

ション映画の身体表象」

富田美香「『桃太郎海の神兵』とドキュメンタリー映画」

齊 梦菲「ストーリーまんが表現における歴史叙述―石ノ

森章太郎『マンガ日本の歴史』を題材に」

日本の舞台芸術における身体 ―死と生、人形と人工体

(研究代表者 ボナヴェントゥーラ・ルペルティ、幹事 細

川周平)

〔共同研究員名〕

赤間亮、板谷徹、井上理恵、岩井眞實、梅山いつき、カ
ティア・チュエンツェ、菊地浩平、桜井圭介、佐藤恵

里、武井協三、竹本幹夫、土田牧子、中嶋謙昌、深澤昌
夫、藤井慎太郎、森下隆、山田和人、滝澤修身、橋本裕
之、李応寿

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一五年一月二九日

竹本幹夫「能・狂言における中世的身体」

中嶋謙昌「能の身体と詞章」

〈第三回研究会〉

二〇一六年一月二三日

赤間 亮「浮世絵は役者の身体をどのように記録したか」

土田牧子「歌舞伎音楽と歌舞伎の身体―黒御簾音楽と竹本

から探る―」

武井協三「初期歌舞伎の女方 今村久米之助について」

深澤昌夫「近松劇に見る人形の身体」

〈第四回研究会〉

二〇一六年三月一九日

板谷 徹「沖繩における身体の近代化―御冠船踊りから琉

球舞踊へ」

橋本裕之「鶺鴒神楽における神楽子の身構え」

山田和人「からくり人形における身体——からくり人形と手

妻人形——

菊地浩平「でくのぼうとしての初音ミク」

オーブンデイスカッション

万国博覧会と人間の歴史——アジアを中心に

〔研究代表者 佐野真由子、幹事 井上章一〕

〔共同研究員名〕

石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、鵜飼敦子、江原規由

川口幸也、神田孝治、澤田裕二、寺本敬子、中牧弘允、芳

賀徹、増山一成、武藤秀太郎、武藤夕佳里、岩田泰、橋爪

紳也、林洋子、稲賀繁美、瀧井一博、ジョン・ブリーン、

劉建輝、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

青木信夫、ウィーベ・カウテルト、シビル・ギルモンド、

徐蘇斌

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一五年一〇月一七日

論集刊行報告

現在と未来の万博をめぐる討論会

1) ミラノ万博について

2) 大阪万博誘致について 森栄子

国際研究集会等、今後の活動に関する打合せ

細川周平「大阪万博、感激の一日間」

二〇一五年一〇月一八日

岡本貴久子「平和記念東京博覧会からみる大正期の林業政

策とその振興——帝国森林会の出品作をめぐる一考」

西 夏希「万国博覧会と佐野常民——慶応三（一八六七）

年パリ博から明治六（一八七三）年ウィーン博へ」

王 莞略「博覧会と修学旅行——一九一〇年の南洋勸業会

を中心に」

葛西 周「明治期日本の万博への参加——楽器・音楽書等

の音楽関連出品物を中心に」

範 麗雅「一九世紀万博の東洋観を打開した『ロンドンに

おける中国芸術国際展覧会』（一九三五年）——瀧精

一の中国美術紹介活動を中心に」

〈第四回研究会〉

国際研究集会

二〇一五年一二月一七日

武藤夕佳里「並河靖之と万国博覧会——並河七宝と巴里庭をめぐる人びと」

青木信夫「建築家劉既漂と中国における『新建築』の誕生——パリ万博から西湖博覧会へ」

ウィーベ・カウテルト「景福宮から朝鮮博覧會場への空間変貌」

増山一成「幻の博覧都市計画——東京月島・日本万国博覧会」

石川敦子「資料から見るランカイ屋と装飾業の歴史」

澤田裕二「愛知万博前夜——博覧会の企画制作現場から」

二〇一五年二月一八日

クラウス・ディートリッヒ「知識のグローバルネットワークへ——一八六〇〜一九一〇年代の万国博覧会における日本の教育専門家たち」

ロバート・ヘリヤー「闘うティールーム——万博を舞台に、アメリカ市場を狙って繰り広げられた日英競争

一八九三〜一九一七」

討論（コメンテーター…武藤秀太郎）

エドソン・G・カバルフィン「ポストコロナル時代のアイデンティティ・ポリティクスと万国博のフィリピ

ン・パヴィリオン一九五八〜一九九二」
マヌエラ・チオッティ「実質と表象——万国博と現代美術展におけるインド」

討論（コメンテーター…川口幸也）

クリスチーネ・グレイネル「一九二二年リオ・デ・ジャネイロにおける独立百年記念国際博覧会——植民地主義から『食人』まで」

喬 兆紅「近代中国の博覧会の歩みにおける政府の働き

（一九〇九〜一九四九）」

討論（コメンテーター…ジラルデッリ青木美由紀）

二〇一五年二月一九日

総合討論（コメンテーター…ユク・ヨンス、徐蘇斌、寺本敬子）

公開講演会「アジアの万博」

基調講演 堺屋太一

基調講演 吳建民

座談 堺屋太一、吳建民、橋爪紳也、江原規由

二〇一五年二月二〇日

テーマ・ツアー「博覧会と京都の近代」

京都御苑、閑院宮邸、富小路広場（旧常設博覧会場）、平

安神宮、岡崎公園内(第四回内国勸業博覧会跡地)も
やこめっせ(京都市勸業館)、京都伝統産業ふれあい
館、並河靖之七宝記念館、本家八ッ橋西尾株式会社、

光峯錦織工房

二〇一六年二月二七日

全員討論① 国際研究集会を振り返って

三宅悠有「イタリアで万博日本館運営業務を垣間見る」

二〇一六年二月二八日

全員討論② 共同研究論集『万国博覧会と人間の歴史』、

それぞれの読み方

植民地帝国日本における知と権力

(研究代表者 松田利彦、幹事 瀧井一博)

(共同研究員名)

飯島渉、岡崎まゆみ、小野容照、加藤聖文、加藤道也、河
原林直人、川瀬貴也、栗原純、慎蒼健、通堂あゆみ、アル
ノ・ナンタ、春山明哲、松田吉郎、宮崎聖子、やまだあつ
し、長沢一恵、李昇燁、中生勝美、稲賀繁美、劉建輝、歐
素瑛、李容相

(海外共同研究員名)

陳延媛、李炯植、洪宗郁、山本淨邦

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

国際日本文化研究センター共同研究班「植民地帝国日本
における知と権力」・中央研究院台湾史研究所共催ワーク
ショップ

二〇一五年一〇月二六日

中生勝美「日本植民地の旧慣調査…政策的意図と歴史背景」
李容相「朝鮮鉄道の満鉄委託と官僚」

通堂あゆみ「終戦後の学位授与―『外地』帝国大学閉校過
程の側面―

鄭駿永「犯罪者の身体、朝鮮人の精神…京城帝大精神医

学教室の西大門刑務所研究」

松田利彦「ロックフェラー財団と植民地朝鮮の医療衛生改

革構想―京城帝国大学医学部長志賀潔との交渉を中心
に―

二〇一五年一〇月二七日

曾文亮「植民地台湾における法律家とその家族旧慣に対
する研究」

岡崎まゆみ「内地人法律実務家の朝鮮認識―家族制度への

まなび」]

李 炯植 「戦後朝鮮統治関係者の朝鮮統治史編纂―友邦協会を中心」]

呉 叡人 「Monument of the Vanishing?: The Elegiac Metamorphosis of Taiwanese Nationalism in the Late Colonial Period (1937-1945)」]

総合討論

二〇一五年一〇月二八日

エクスカーション

総統府、国史館總統副總統文物館（旧臺灣總督府交通局）、

台北二二八紀念館（旧臺北放送局）、紀州庵（旧日本

料理屋）

〈第四回研究会〉

二〇一五年二月一九日

栄 元 「植民地日本語新聞の事業活動―大連・満洲日日

新聞社による艦隊便乗見学をめぐって」]

何 義麟 「台湾における近代性と民族性の葛藤―作曲家鄧

雨賢の人物像を中心として」]

春山明哲 「岡松参太郎にとっての台湾社会と法―統治・

ジェンダー・人類」]

陳 延媛 「植民地統治末期台湾における性病管理」]

韓国翰林大学校との共催ワーキングショップについての打ち合わせ

二〇一五年二月二〇日

宮崎聖子 「在台日本人 田中一二の妻、きわのの活動につ

いて」]

李 容相 「有吉忠一の活動と内面」]

長沢一恵 「植民地朝鮮における『社会課』設置と社会政策」]

宋 炳卷 「崔虎鎮の韓国経済史と東洋社会論」]

〈第五回研究会〉

二〇一六年二月二〇日

李 炯植 「京城日報・毎日申報社長時代（一九一四年八月

〜一九一八年六月）の阿部充家」]

愼 蒼健 「植民地『産学官』連携体制の構築―植民地期朝

鮮における人蔘をめぐって」]

紀 旭峰 「『進学ルートの不連続』からみた戦前期台湾人の『日本留学』」]

の『日本留学』」]

栗原 純 「台湾阿片令の改正と新特許問題」]

韓国翰林大学校との共催シンポについての打ち合わせ／次

年度報告順の決定

二〇一六年二月二一日

小野容照「李達の転向―東アジア思想空間の一断面」

鄭 駿永「『満州建国大学』という実験と六堂崔南善」

川瀬貴也「植民地朝鮮の日朝仏教の交流」

小林善帆「いけ花とコッコジ（韓国いけ花）―帝国日本の

連続と非連続」

明治日本の比較文明史的考察―その遺産の再考―

〔研究代表者 瀧井一博、幹事 牛村 圭〕

〔共同研究員名〕

五百旗頭薫、岩谷十郎、植村和秀、大川真、小川原正道、

勝部真人、加藤雄三、國分典子、塩出浩之、島田幸典、清

水唯一朗、谷川穰、永井史男、長尾龍一、中村尚史、福岡

万里子、前田勉、松田宏一郎、山田央子、岡本貴久子、浅

見雅男、上野景文、今野元、大久保健晴、奈良岡聰智、林

洋子、ジョン・グリーン、佐野真由子

〔海外共同研究員名〕

ハラルド・フース、アリスティア・スウェール

〔研究発表〕

〈第五回研究会〉

二〇一五年一月二四日

アリスティア・スウェール「文明開化と大衆メディア―東京

絵入り新聞を中心に」

ケヴィン・ドーク「明治維新の遺産としてのプロテスタン

ティズム・田中耕太郎と南原繁の論争」

二〇一五年一月二五日

ハラルド・フース「Endemic Violence, Global Arms Trade
and the Meiji Restoration」

中村尚史「日本鉄道業形成の国際的契機―『海をわたる機

関車』によせて―」

〈第六回研究会〉

二〇一六年一月二三日

ジョン・グリーン「近代の宮中儀礼…天皇に求められた政

治」

福岡万里子「プロイセン東アジア遠征と幕末外交―日本・

中国・シャムの三点比較へ向けて」

二〇一六年一月二四日

大川 真「幕末日本のデモクラシー受容」

瀧井一博「『知識交換』の明治―渡辺洪基の生涯と思想―」

マンガ・アニメで日本研究

〔研究代表者〕 山田奨治、幹事 荒木 浩

〔共同研究員名〕

飯倉義之、石田佐恵子、伊藤遊、岩井茂樹、岡本健、金水敏、白石さや、西村大志、山中千恵、山本冴里、油井清光、横濱雄二、吉村和真、高馬京子、谷川建司、安井眞奈美、北浦寛之、宮崎康子、小泉友則

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一五年十二月一九日

作品検討 (『文豪ストレイドッグス』ほか)

紹介者・飯倉義之

作品検討 (『食の軍師』『花のズボラ飯』ほか)

紹介者・西村大志

二〇一五年十二月二〇日

作品検討 (『孤独のグルメ』)

紹介者・横濱雄二

〈第五回研究会〉

二〇一六年三月一二日

作品検討 (『7seeds』)

紹介者・宮崎康子

作品検討 (『くるねこ』)

紹介者・石田佐恵子

二〇一六年三月一二日

締めくくりの討論

新大陸の日系移民の歴史と文化

〔研究代表者〕 細川周平、幹事 瀧井一博

〔共同研究員名〕

赤木妙子、アンジェロ・イシ、一政 (野村) 史織、糸井輝子、小嶋茂、佐々木剛二、スエヨシ・アナ、高木 (北山) 眞理子、高橋勝幸、滝田祥子、根川幸男、日比嘉高、フェリッペ・アウグスト・ソアレス・モッタ、松岡秀明、物部ひろみ、森本豊富、守屋貴嗣、守屋友江、柳田利夫、吉田裕美、早稲田みな子、栗山新也

〔海外共同研究員名〕

エドワード・マック、森幸一

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一五年十二月二三日

報告書出版に向けての打ち合わせ（全員討議）

（文責：研究協力課）

基礎領域研究

韓国語運用の応用（継続）

代表者 松田利彦

概要 研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対し、会話、読解、聴解の習得を旨とした授業を行う。

日本近代まんが史概論（新規）

代表者 大塚英志

概要 サブカルチャー領域の研究を希望するこの分野の初心者に近代まんが史の初歩的な常識を概説する。

古記録学基礎研究（新規）

代表者 倉本一宏

概要 日本前近代の根幹的史料である古記録の解説を、原本や写本の見方・扱い方も含めて考えていく。大学院生・教職員・他大学の院生・研究者の参加も歓迎する。

フランス語運用の基礎／応用（継続）

代表者 稲賀繁美

概要 フランス語の運用の基礎を実践的に訓練し、あわせて必要に応じて論文講読、仏文論文作成の手ほどきをする。

中世文学講読（継続）

代表者 荒木 浩

概要 中世文学の影印本の読解を軸に、古典テキストの研究方法を考察する。

文学・文化史理論入門（新規）

代表者 坪井秀人

概要 文学および文化史に関する基礎的な理論を学びながらテキストの読解・分析の実践的方法を修得する。